

ご隠居・伊能忠敬

郷土史研究会会員

二子石 三喜男

(草部出身 熊本市在住)

肥後細川藩「草部村」・「高森町」・「色見村」などを測量

はじめに

50数年前私は中学校社会科の授業で測量家「伊能忠敬」のことを学び、その後すっかりこの人物のことを忘れていました。しかし5年程前、作家井上やすし氏の小説「四千万歩の男」を読んだことから、忠敬（以後姓を略）という人物に興味を覚え、図書館等で忠敬関連の様々な資料を調べてみました。

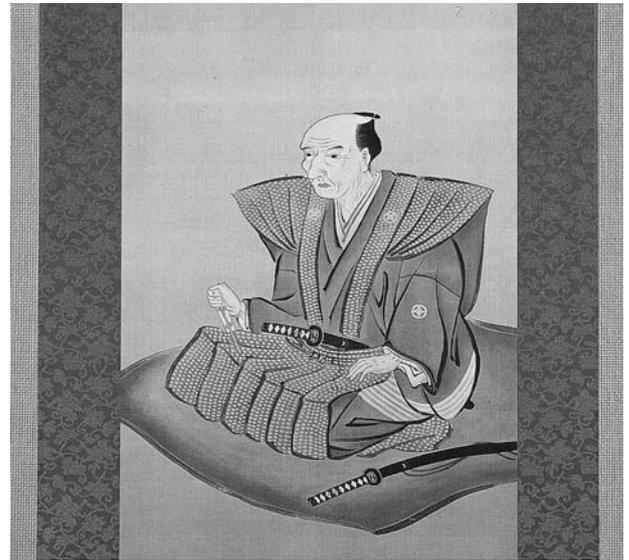
そして、忠敬が几帳面に記録し続けた日記の中に、忠敬測量隊の高森測量のことが記されているのを見つけたのです。大変驚きました。以来忠敬に関する様々な資料をさらに探すとともに、多くの高森町民の方々にも忠敬の高森測量のことを尋ねてみました。

結果は、忠敬の名前は多くの方がご存じでも、昭和54年発行の高森町史にこの測量のことが記載されているのに、残念ながらほとんどの方がこの史実をご承知ではありませんでした。

また、忠敬の高森測量は1812年（文化9）6月に4日間行われており、平成24年がこの測量から丁度200年の節目の年となることも分かりました。そこで、私は熊本県立図書館や熊本大学図書館と千葉県の伊能忠敬記念館などで調べた忠敬の業績や人物像などと、地元の方々のご協力を得て調査した測量隊の高森町内の測量の道筋や宿泊先などを町民の皆様知って欲しいと考え、史実を中心に取りまとめた資料の広報誌への掲載について高森町役場にご相談致しました。役場ではこの申し出を慎重にご検討され先般掲載を了承していただきましたので、今月から忠敬の「業績や人物像と高森測量」等について、町民の皆様にお伝えしたいと思います。

忠敬の2つの人生

上総かずさの國（現在の千葉県）生まれの忠敬は、若い頃から測量家であったように多くの方々に誤解されていますが、17歳から49歳までは酒造業や水運業などの商売に徹した商人であり、実際に測量と地図づくりに携わったのは55歳以後のことで、この時忠敬



千葉県伊能忠敬記念館所蔵の忠敬像

は家業を息子に譲った正真正銘の町人で隠居の身でした。水戸のご隠居は天下の副将軍として全国を自由自在に訪ねて大活躍をしますが、これはあくまでも現代のテレビの中の物語であって、当時の日本国内は各藩ごとの統治が厳しく行われており、武士といえども、さらに農民や町人が自由に諸国を往来する事は許されていませんでした。しかし、元商人で隠居の忠敬はこうした困難を乗り越え、実際に全国の大半に及ぶ3万5千^キを歩き通して大きな業績を挙げたのです。

それではまず、商業と測量の2つの仕事に取り組んだ忠敬の人生のうち、50歳以後の測量家としての足跡を辿ることにします。

徳川家康が江戸に幕府を開いて約200年近く後の1795年（寛政7）、元商人で隠居の忠敬（隠居名は勘か解げ由ゆ）が江戸に現れ、平均寿命が今よりずっと短かったこの時代に50歳を過ぎていたにもかかわらず、19歳も年下の幕府の天文方てんもんがた高橋よしとき至時の弟子となり、本格的に暦学や天文学を学び始めました。そして、55歳からはその学問を活かして日本列島を北から南まで歩き歩いて測量を行い、非常に正確で見事な日本最初の実測地図作製に携わりました。

次号（測量隊の10次にわたる全国測量の道筋）につづく